

中学校 発問検討ワークシート（入力後）

①教材名	独りを慎む	②内容項目	A- (2) 節度、節制
<p>③教材分析 (中心発問で考えさせるために押さえておきたいこと)</p>	<p>・主人公が独り暮らしをした年齢：33歳。このエッセイを書いている年齢は？</p> <p>・最初は、自由を謳歌していた（と予想できる）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓ 主人公が独り暮らしをして気づいたこと</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①「お行儀が悪くなった」⇒行為そのものに目を向けるのではなく、その裏にある精神を問題視している。</p> <p>②親にたしなめられたり、他者の目を意識すればできることが、独りだとできない自分がある。⇒これは誰しにもあてはまる人間理解の部分。</p> <p>③「独りを慎む」ことの真の理解。⇒自分で自分をコントロールするということ。他律から自律へ移行する(したい)。</p> <p>・最後の言葉「<u>独立して17年になりながら、いまだになかなか実行できないでいる自分に向かって、意見していることばなのです</u>」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の弱さに気づき、「自制の心」を持って生活を整えようとする主人公だが、それでも完璧にできないこともある。だからこそ「独りを慎む」ことの意義をかみしめて生活していく。それは誰もが共感できる人間らしい姿であり、主人公の姿を通して、自分も「自制する心」を持ち続けたいと願う。</p> </div> <p>主人公を見習いましょうではなく、どうすればできるか？の方法論ではなく、道徳科の特質をしっかりと押さえる。</p>		
<p>④ねらい (この教材で児童に考えさせたいこと)</p>	<p>まず、指導要領解説を読む。内容項目、ねらいを確認、この授業のキーワードをつかむ。子どもたちと考えていきたいことを確認し、そのための発問を考えるようにしている。</p> <p>→指導要領だけでなく、解説を読むことは大切。指導要領の内容だけだと、授業も分かり切ったような内容になりがち。指導要領の改訂で「～する」→「～すること」と変わったので、「～すること」を生徒と考える、というのが大切。解説の読み込みも大切。</p> <p style="text-align: right;">(主題名：自制する心)</p> <p>●この授業のポイント</p> <p>自制する心 ってどんな心か 制御する、我慢する心？と考える生徒もいる。 自制する心を身に付けると人生が豊かになることを考えたい。 「我慢しろ、ということなんだろう？」と生徒が最初に思うかもしれないが、授業後には、「自制する心を身に付けると人生が豊かになるんだ」と発見がある授業にしたい。</p> <p>「自制する」とは「我慢する」という消極的なものではなく、自分自身をコントロールすることであり、そのことで自分が人生の主人公となり、自分の生活や人生をより豊かなものにしていくことを理解し、望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を養う。</p>		

	<p>→ポイントを押さるためならば、長いねらいになってもよい。 自制する理由→人に見られている、叱られるになりがち。そうではない。 自制する→自分を動かすのは自分、自分が主人公になるんだ、ということ。 最初は解説の言葉をそのまま使ったようなねらいになっていたが、ちゃんとポイントを文章化して具体的に書くと、先生も迷子になりにくい。 →生徒の最初の思いが、良い意味で裏切られるような授業。</p>
<p>⑤中心発問 (ねらいを達成するための発問)</p>	<p>発問：「自制する心」とはどのような心ですか？ →主題名をそのまま聞いてよいのか迷っている。 →深いレベルを考えさせるためには、共通の土台で考えることが必要。教材を土台として考える。教材の中にある考えるポイントを使うことで、焦点を絞って深く考えることができる。まずは、教材の中から具体的な事象から入っていくと、共通のことから生徒が議論しやすくなる。</p> <p>叱られるから、ではなく「独りのときこそ」大切と主人公は考えた。 中心発問：主人公が、独りのときこそ自制する心を大切にしようと思ったのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が見てるから、叱られるからではなく、自分で考えるんだ。 ・あくまで基準は自分にあるんだ。 ・できないときがあるけど、いつかは立て直せるんだ。 ・自分の責任で、自分でコントロールすることなんだ。 <p>→「節度、節制」自分をコントロールする、自分の主人公、自分の運転手になる。</p> <p>★「自制する心を大切にしよう」を教師の方から出さないようにしないといけない、主人公がそう考えた、という押さえをしてから中心発問に行かないといけないのでは？</p> <p>→「独りを慎む」がそれにあたるが、それをそのまま問うと難しいので、授業の流れで押さえておくことが必要 →基本発問で押さえておき、流れを作るようにする。</p>
<p>⑥補助的発問 (中心発問をさらに深めたい)</p>	<p>発問：自制する心をもつと、あなたの生活はどのように変わっていくでしょうか。 「ですか」→断定的な聞き方に聞こえる（正解？不正解？） 「でしょうか」→道徳かは多様な意見が出てくる広い聞き方がよいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も、親元を離れたらできるような気がする。 ・誰かに見られてる、叱られるは関係ない、自分で考えたことだから。 ・自分で基準を決めることだから、しっかりしなきゃ。 <p>→明るい捉え方をする生徒が増えるのでは。 →叱られるからという考えではなく、自分が主人公であるという考えへ。 →「自制する」は「我慢」じゃない、と捉えられるのでは。 →親元やこの先生を離れても、どのような環境でも自分の考えでやっていける、という自信がもてるのでは。</p> <p>発問：なぜ自制する心をもつと、自信が生まれるのだろうか？生活が明るくなるのだろうか。</p> <p>→自制することは、我慢じゃない、自分を抑え込むんじゃない、と感じ取れた生徒は、自分をかっこいいと思えるのではないか。 →この授業のポイントを先生は持っていることが大切。危険を避けるための自制ではない。狭い生徒指導ではなく、自己指導能力を高める→自己実現・自分の人</p>

	<p>生を豊かにする。生徒とたっぷりと「雑談」をできるように時間をとってほしい。</p>
⑦振り返りの発問	<p>発問：自制する心を身に付けるためには、どうすればいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に客観的に自分を見ようとする。 ・叱られないためにやっているんじゃない、それがカッコいい。 ・一人のときでも、もう一人の自分が見ているような意識をもつ。≒メタ認知 ・難しいからこそ、いま身に付けている生活習慣を続けていこう。 <p>→方法論になってしまわないか心配。</p> <p>→これが中心の発問になると方法論になってしまうが、すでに中心発問で押さえてあるので、道徳的な態度（具体的な行い行動ではなく、それをしようとする構え、心）を考えさせることは、方法論にはならないのでは。あくまでも決意表明ではない。</p>
⑧導入発問 基本発問 (中心発問にいたるまでに押さえておきたい発問)	<p>導入発問：独り暮らしはしたいですか？</p> <p>→教材への関心を高める。したい子も、したくない子もいるので。</p> <p>→中学校3年生なので、独り暮らしに関心が高いだろうと思われる。</p> <p>ねらいへの導入</p> <p>めあて：「自制する心」とは、どのような心でしょうか。</p> <p>→めあてを立てる授業が増えてきている。問題解決的な学習のひとつ。生活上の問題解決ではない。生徒が問題意識を持って進めることができる。</p> <p>→授業が教材の中身だけで終わることも防げる。</p> <p>→めあてを示すと「こういうことを答えたらいいのか」と思われるが、授業後に、それをいい意味で裏切るような授業にしていくことが大切。</p> <p>基本発問：「独りのときに、お行儀が悪くなること」は、いけないことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰も見ていないならいい。 ・外に出るときはちゃんとするからいい。 <p>→このように答える子がいることは確認しておきたい。そのうえで、でも、主人公は一人にいるときこそお行儀をよくすることが大切だと思っている、ということを確認する。そうすることで、授業の流れができてくる。</p> <p>→中学校では、人間の弱さを認め合うことも大切。そうしておく、乗り越える強さを考えやすくなる。</p> <p>→「自制する心は大切」を教師が出すような授業にならないように。</p>
⑨まとめ	<p>比嘉先生：せっかくいい教材なのに、授業してみると深まりがない、方法論的に終わってしまうという悩みがスッキリした気がする。教師自身、自制する心に明るいイメージを持っていなかったかもしれない。指導要領の読み込みが浅かったのかも。私一人では気づけないこと。現場の教師は、発問の検討や授業の感想の言い合いなど、道徳について話す場を欲している。</p> <p>島先生：今回の収録のために、比嘉先生と指導案をやり取りする中で、自分自身も深まっていったところがある。先生同士の「どう思う？」というやりとりは大切にしてほしい。時間がない中でも、ちょっとしたことでも。</p> <p>中学生は大人と同じくらい考えることができる。わいわいがやがやとみんなで相談して、指導要領解説を読んで、深いところをつかんでおく必要がある。</p> <p>Aの視点に共通するポイントを押さえるのが大切。道徳は分かり切ったことを扱っているように見える。それを違う視点で考えることが大切。</p>